

公明党 横浜市会ニュース 第77号

民衆の声 VOICE よこはま

公明党横浜市会議員団 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL.671-3023 FAX.681-2060 http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com

# 平成28年第2回定例会の論戦から

マイナンバー条例の一部改正で利便性向上

議案関連質疑 福島 直子 (中区選出)



マイナンバーは、法律で定められた使途に加え、一定の枠内で自治体が定める事務にも活用することができます。市はこのたび「小児医療費支給」の手続きにおいてマイナンバーを活用することを提案してきましたので考え方を確認しました。

林市長は、他都市から転入した家庭の手続きにおいて必要な前居住地からの収入証明を、申請者の手を煩わせることなく確認できるようにする等の利便性向上に期待していると答えました。

「横浜市訪問型生活援助サービス」充実めざす

高齢者の需要が拡大している「生活援助」を確実に提供するため、市は居宅介護サービスを提供する事業者の指定基準に関する条例の一部改正を提案しました。

掃除、洗濯、買い物援助など必ずしも専門的資格を必要としない分野には、一定の研修を経た新たな介護従事者が携われることとして人材のすそ野を拡大するとともに、介護保険の効率的運用を目指すのですが、サービス水準をどのように維持する

のか質問しました。

市長は、各訪問介護事業所の「サービス提供責任者」が監督責任者として当たることを義務付けると共に、市作成の標準テキストに基づく研修により水準を維持すると答えました。



若者の市政への関わりについて

一般質問 竹内 康洋 (神奈川区選出)



選挙権年齢が「20歳以上」から「18歳以上」になりました。選挙は若者世代が市政に参加する一つの方法ですが、本来は若者の社会参画や政策形成へのかわり等が大切であり、若者のニーズや意見を市政に反映させる方法を考えていくことが必要です。そこで、若者が市政に関わる機会を充実させることについて、市長に質問しました。

市長は、若者の社会への参加意識の醸成を支援し、地域の一員として主体的・積極的に市政に関わっていただくことは、将来の横浜を担う人材育成のために大変重要。今後も産学民官による政策イベントや小中学生が地域づくりに参加する等、若い世代が市政に関わる機会を充実させていくと答弁しました。

誰にでも優しい社会の構築について

公明党は、東京都議会でも「都内のどこでも、誰でも一目で分かる共通のヘルプカードを普及させるべきだ」と提案。都営地下鉄等の交通機関を中心に、援助や配慮の必要な方の意思表示を行うための「ヘルプマーク」の配布を始め、全国的な普及に力を入れてきています。そこで、本市の考えを市長に質問しました。

市長は「ヘルプマーク」は、広域的に導入されるのであれば、援助や配慮が必要な方々に有効。本市としても、東京都からの呼びかけにお応えする方向で、近隣の自治体と調整しながら、導入に向けて検討を進めていくと答弁しました。

# 防災・減災対策を着実に推進!

公明党は当センターのリニューアルに対して、災害劇場や地震体験、けむり体験、暗闇体験等施設の拡大、スタッフの充実や防災教育への活用の充実を求め、従来よりも明るく魅力あるセンターになるよう要望してきました。臨場感あふれる映像で、災害



発生から避難までの行動を学ぶことができる「減災トレーニング」など整備されました。

# 熊本地震災災害 横浜市も全力で支援

4月に発生した熊本地震に対して、公明党は、国において早期に被災地支援の補正予算を成立させ、被災者のニーズに合った住宅の供給や道路復旧、橋梁修繕、観光政策を進めています。横浜市でも発生後の早い段階から、現地支援を開始し被災者の受け入れ体制を整備してきました。

現地に対し、必要な物資を届けるとともに、延べ約550人の派遣を行いました。避難所の運営、り災証明書発行や災害廃棄物処理業務、水道復旧・下水管の調査、被災者の医療・こころのケア対応業務等の支援を

行っており、派遣には、横浜市の職員の他に、横浜医師会、水道工事業者等の協力も得ています。

これからも、一日も早い復旧・復興のために、被災者に寄り添い、横浜市からの支援を推進し、公明党のネットワーク力を活用し迅速な対応を進めていきます。



# 横浜市民防災センターがリニューアルオープン

本年4月1日より、市内唯一の防災学習施設である「横浜市民防災センター」がリニューアルオープンとなりました。この施設では、地震などの体験を通じて、誰でも、楽しみながら、わかりやすく防災・減災について学ぶことができ、市民の防災力向上が期待されています。

の恐ろしさを知ることができる「災害シアター」や、震度7までの揺れや、過去の地震、今後起こりうる地震、そして、戸建住宅から超高層ビルまでの揺れなどを体験できる「地震シミュレーター」、映像や音響などの演出で、地震、風水害、火災などの